



体験学習メソッドを使った対人援助専門職の研修



DATA

- 主な連携先・メンバー
ハートピア堺/NPO法人み・らいず/堺市の福祉教育関係団体
- 活動地域
大阪府堺市
- 活動期間
2013年度～継続中
- 活動資金
堺市と関西大学との地域連携事業(2018年度～)

活動の目的

- 1 地域の対人援助職の研修に寄与すること
- 2 学生ファシリテーション能力の向上

連携にいたる経緯

2013年から教育研究高度化促進費の助成を受け、本学堺キャンパスにあるPA(プロジェクトアドベンチャー)施設を使った関大型体験学習メソッドを開発し、大阪府の教員研修や近隣の福祉機関への研修を実施してきた。また、2016年から本学学生向けにこのメソッドを導入したことで学生ファシリテーション能力が向上し、外部の対人援助職を対象とした研修にも関わることができるようになった。

活動内容

本学人間健康学部の「スポーツと健康コース」に所属する学生がファシリテーターとなって、堺市の社会福祉法人、大阪府・市の教員、対人援助機関を中心に、PA施設を使用した研修を提供している。

特別養護老人ホーム「ハートピア堺」では、担当部署や経験年数に応じたテーマを設定し、学生・教員が意見をすり合わせながらプログラムを策定。こうした研修は、人材育成会社が提供する高度な社員研修にも匹敵する質を備え、なおかつ学生が触媒的役割を果たすことで参加者の気づきを促すという、おそらく世界でもほとんど例がない実践となっている。

また、堺区協和町で「にしのこまんぶく食堂」を運営する「ぶくしょくサポーターズ」と堺市教育センターでは、それぞれ普段活動している子どもたちや学生ボランティアも参加し、より現場に近い状況下での研修を提供。こちらもユニークかつ新しい試みであり、今後の展開が期待される。

堺市立福田小学校にて実施した心肺蘇生法およびAEDの講習会では、体験学習の経験を積んだ学生にグループワークのファシリテーションを行わせた。



活動の成果

- 1 堺市内の各種専門職者に対して、関大型体験学習法の考え方やベーシックなメソッドを伝えることができた
- 2 学生たちにとってファシリテーションを経験することができる貴重な機会となり、そのうち数名の学生は専門家に匹敵するスキルを身につけることができた
- 3 専門職者とのふれあいを通して、学生たちは自らの進路に対する視野を一気に広げることができた

今後の課題・目標

- 1 体験学習に用いることができる教室の不足を解消し、より多くの学生や地域の専門職者に研修の機会を提供する
- 2 体験学習方法が、実際にどのように現場で活かされているかフィードバックをもらいながら、継続的に支援する体制を構築していく

教員紹介



■ 人間健康学部 教授

村川 治彦

Haruhiko Murakawa

村川ゼミでは、社会の多様な人々と交流しながら地域に貢献する活動を通して、スポーツ等で培ってきた経験を、社会にでて様々な分野で活躍できる実践知へと一般化していく。



■ 人間健康学部 教授

安田 忠典

Tadanori Yasuda

人間健康学部では、レクリエーション、ファシリテーション等のトレーニングをしている明るくユーモアあふれる学生たちが実際の経験の場を求めており、そんな若い力を求めている現場とコラボが可能。



■ 人間健康学部 教授

灘 英世

Hideyo Nada

灘ゼミでは教職志望の学生と共に「理想の体育科教師像」を追い求めている。
(資格)日本赤十字社救急法指導員
(自称)現役のトライアスリート



■ 人間健康学部 准教授

谷 所 慶

Kei Tanisho

専門はトレーニング科学およびスポーツコーチング。対象はアスリートのみならず、子どもの体力づくりから成人の生涯スポーツ、そしてマスターズスポーツまで、スポーツや遊びが心身に及ぼす影響について研究している。